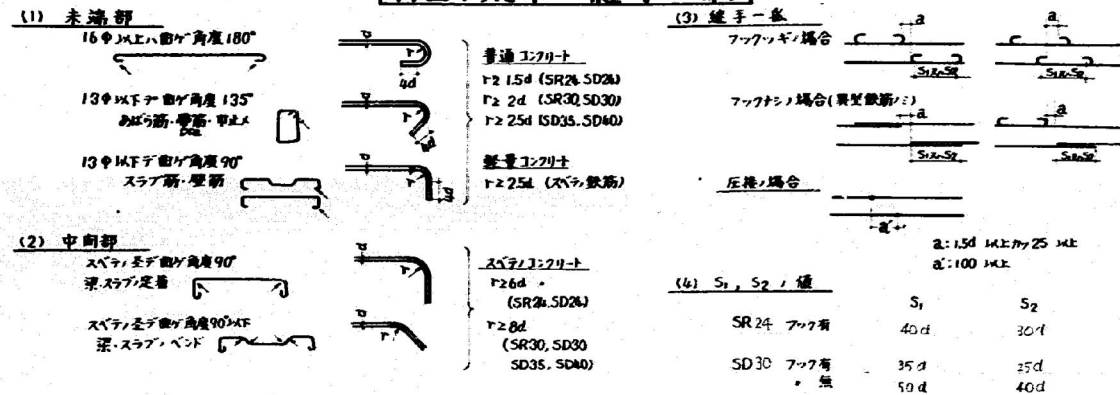
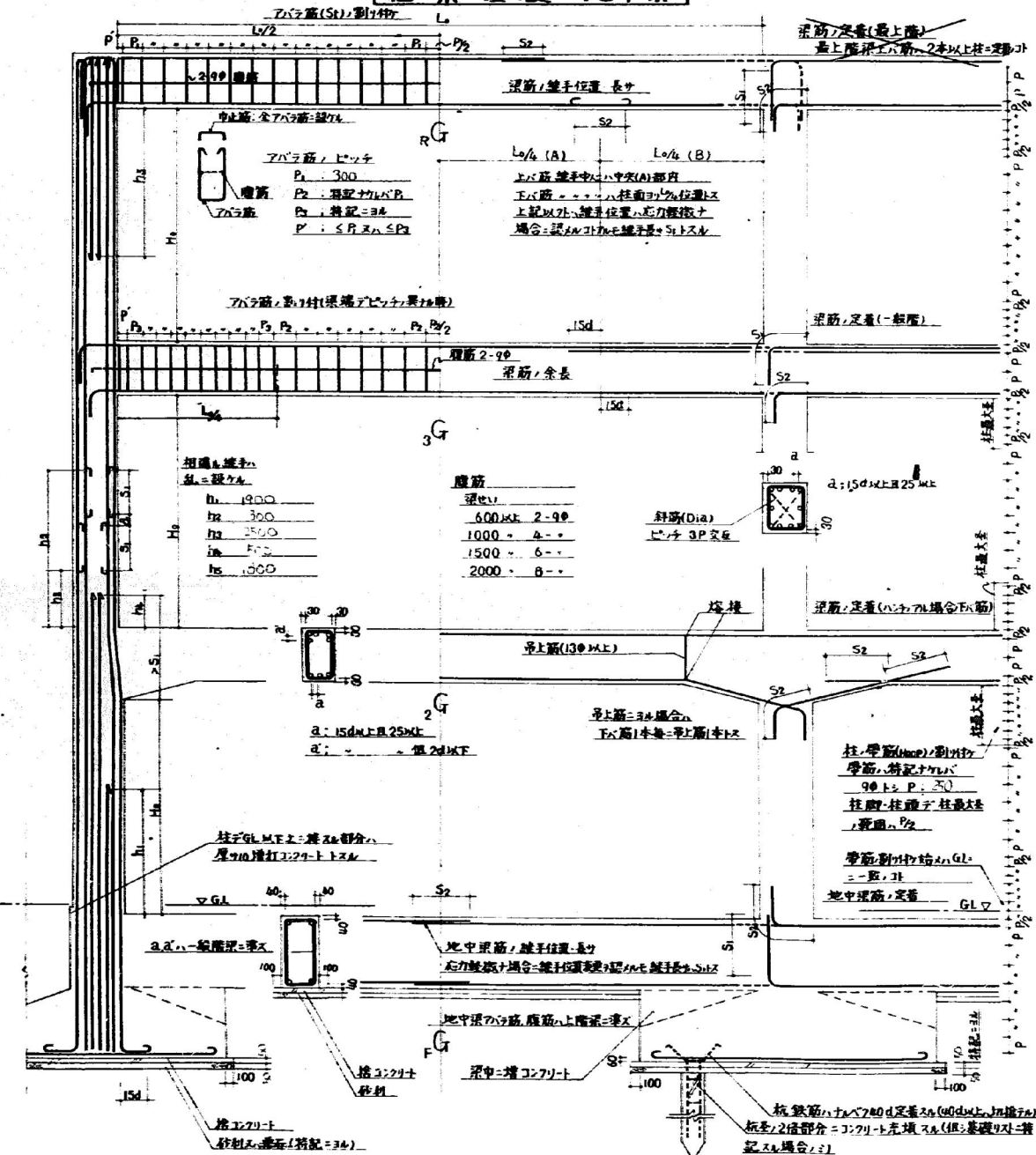


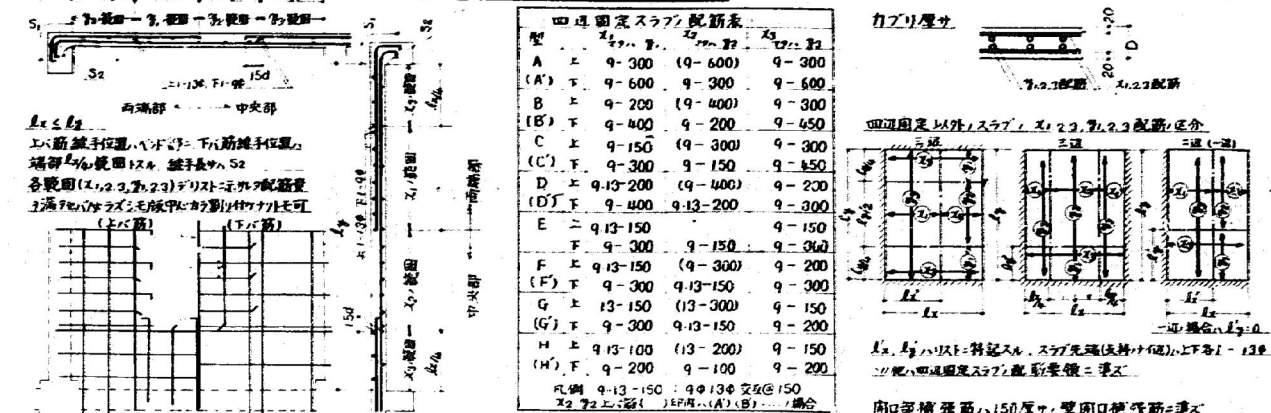
折曲規準・継手一般



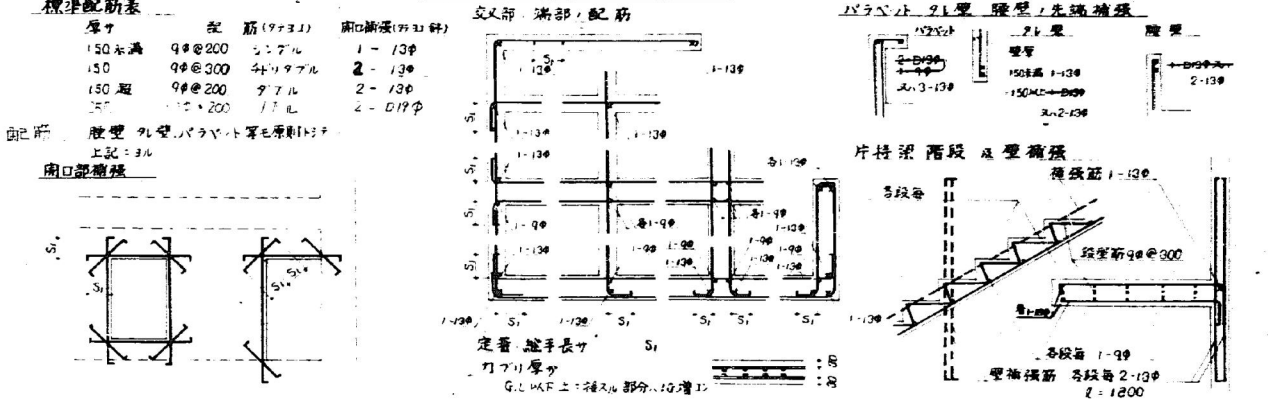
柱・梁・基礎・地中梁



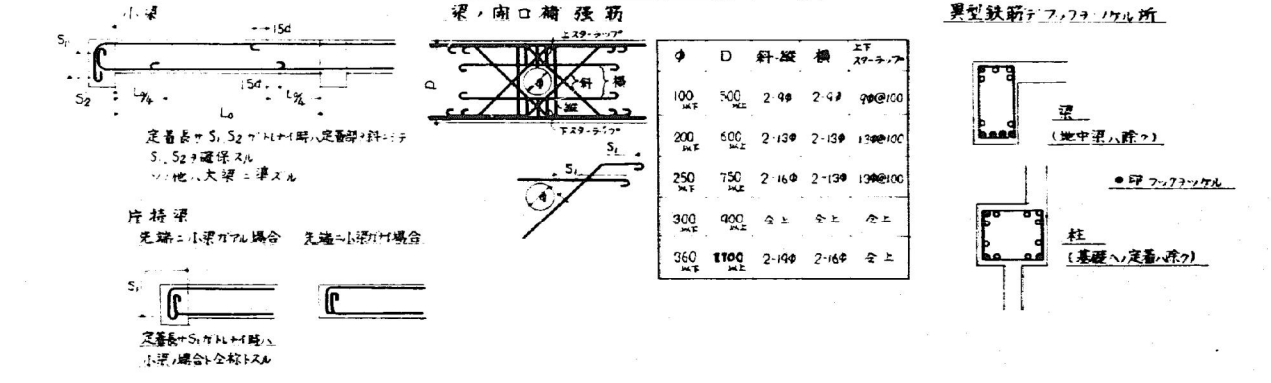
スラブ



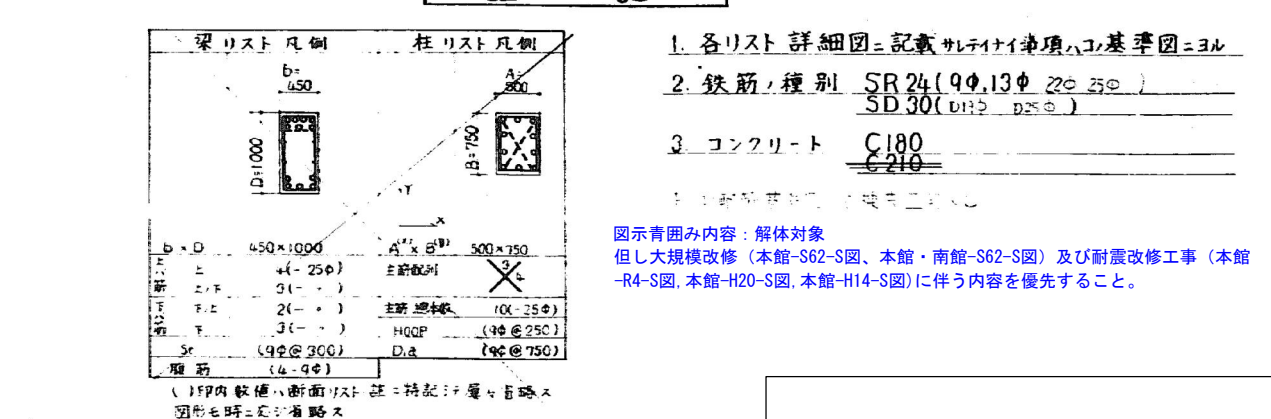
壁・片持梁階段

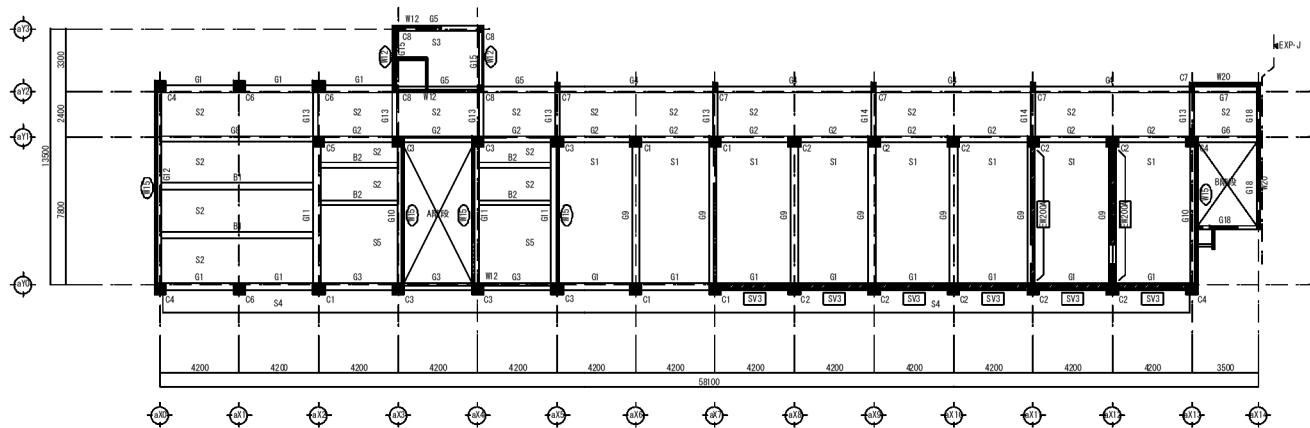


小梁・片持梁・梁開孔・他



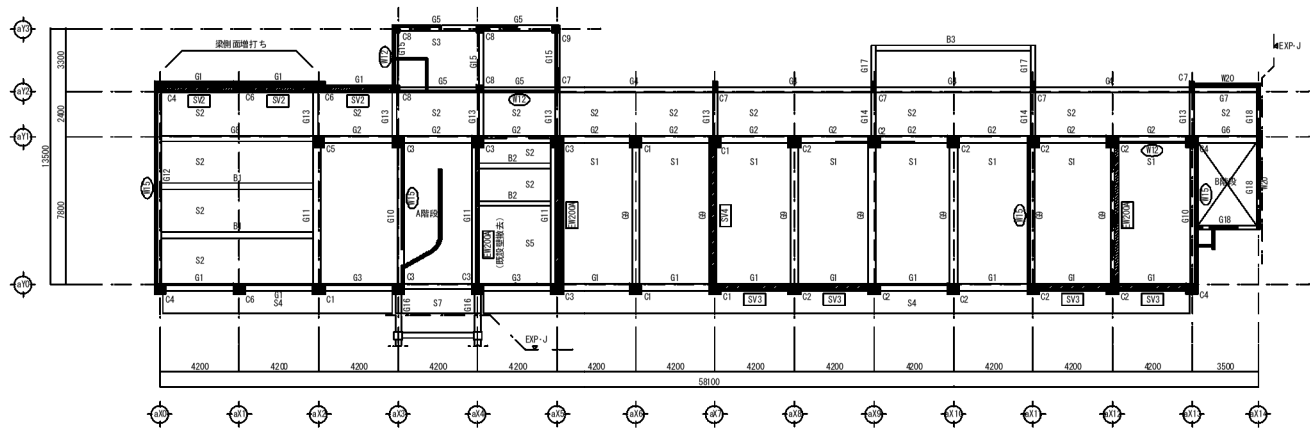
註記





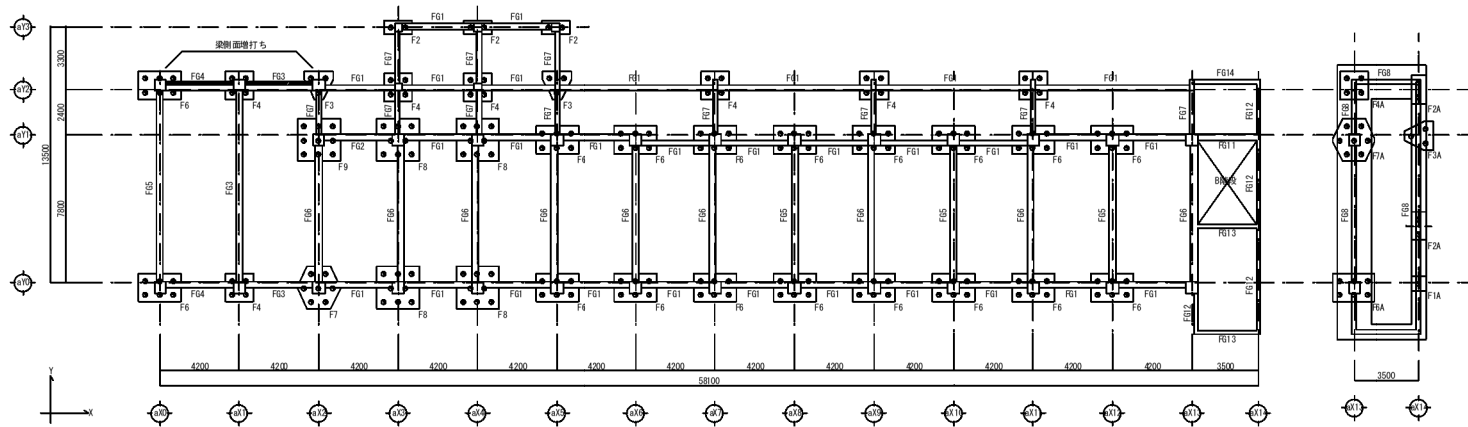
2階柱壁 3階床梁 伏図 1:200

特記なき限り下記による
・壁厚は 150mmとする
・柱は 耐力壁を示す
・は 位置を示す



1階柱壁 2階床梁 伏図 1:200

特記なき限り下記による
・壁厚は 150mmとする
・柱は 耐力壁を示す
・は 位置を示す

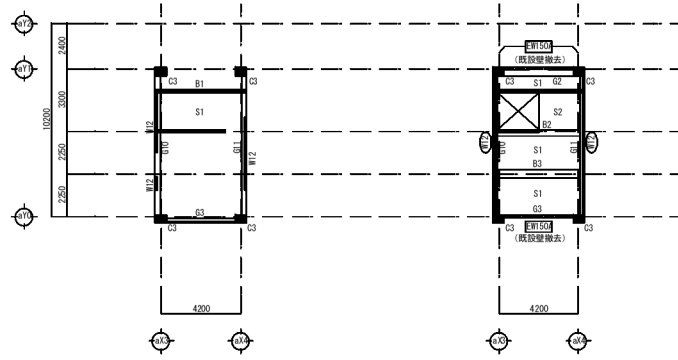


基礎伏図 1:200

特記なき限り下記による
・基礎断面は 400mmとする
・柱は 耐力壁を示す
・は 位置を示す

基礎伏図 (R-3000) 1:200

特記なき限り下記による
・基礎断面は 400mmとする
・柱は 耐力壁を示す
・は 位置を示す

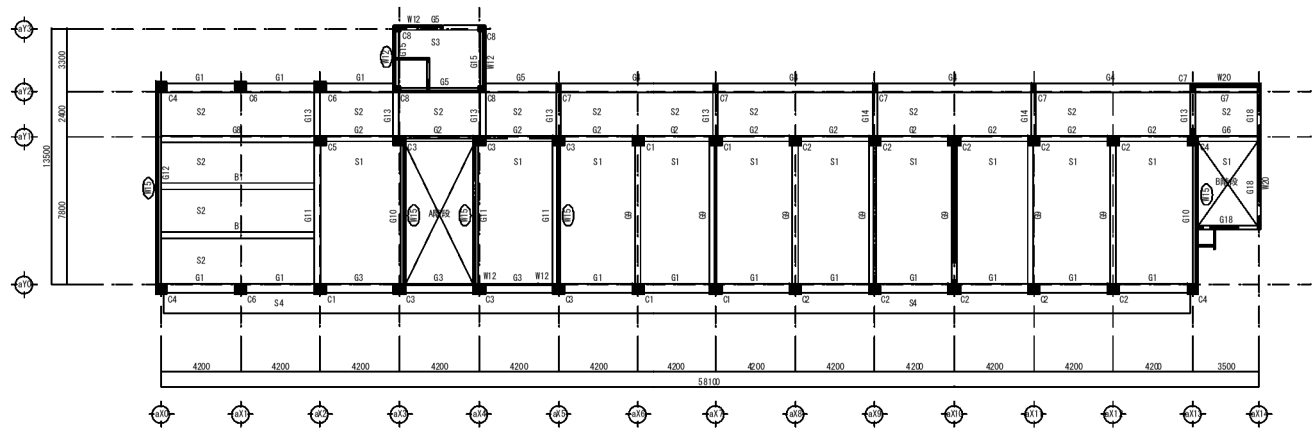


1階柱壁 2階床梁 伏図 1:200

特記なき限り下記による
・壁厚は 150mmとする
・柱は 耐力壁を示す
・は 位置を示す

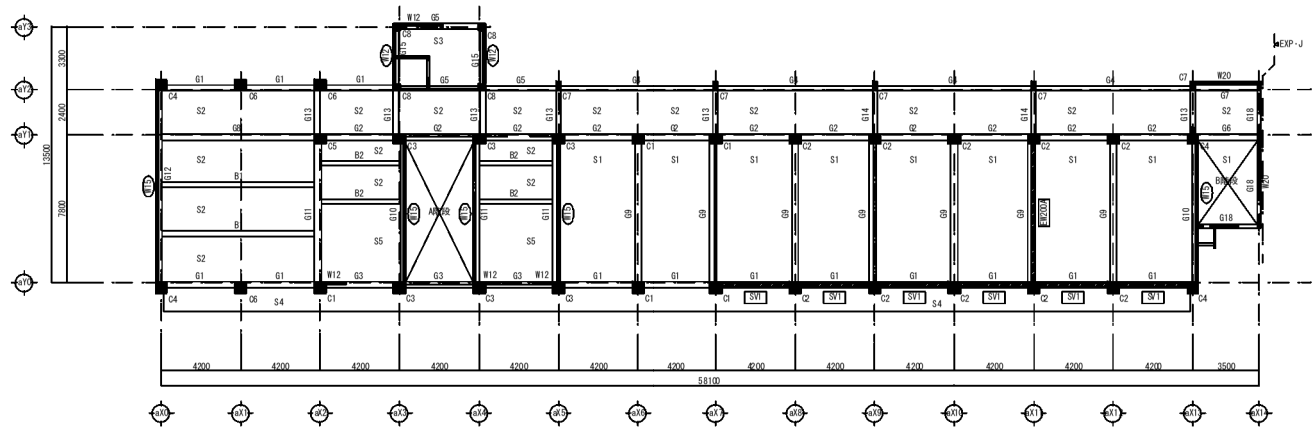
2階柱壁 3階床梁 伏図 1:200

特記なき限り下記による
・壁厚は 150mmとする
・柱は 耐力壁を示す
・は 位置を示す



4階柱壁 5階床梁 伏図 1:200

特記なき限り下記による
・壁厚は 150mmとする
・柱は 耐力壁を示す
・は 位置を示す



3階柱壁 4階床梁 伏図 1:200

特記なき限り下記による
・壁厚は 150mmとする
・柱は 耐力壁を示す
・は 位置を示す

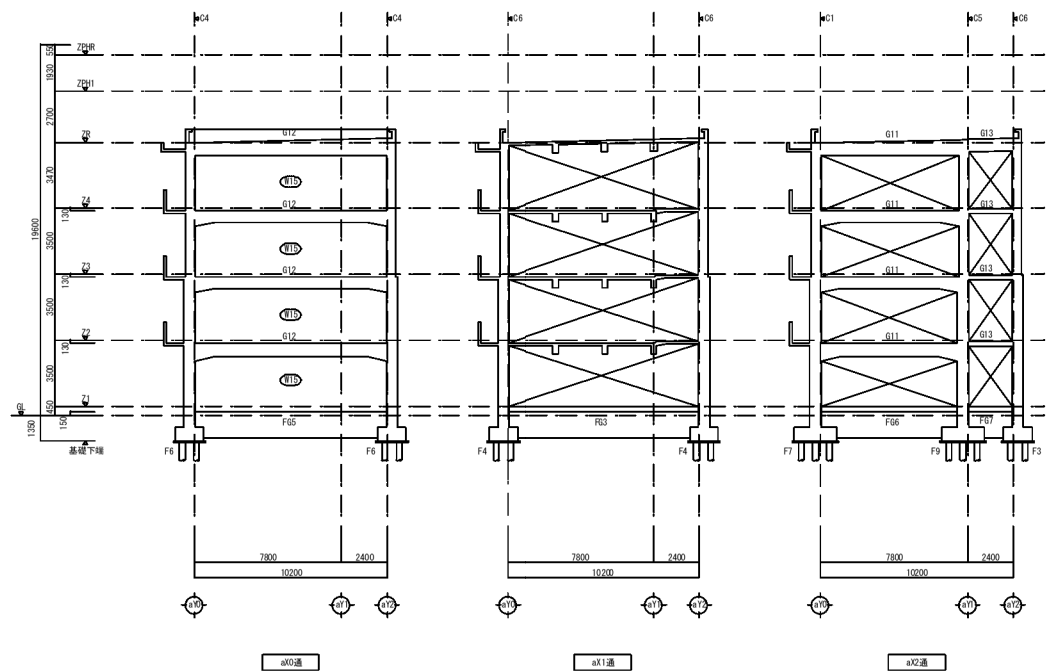
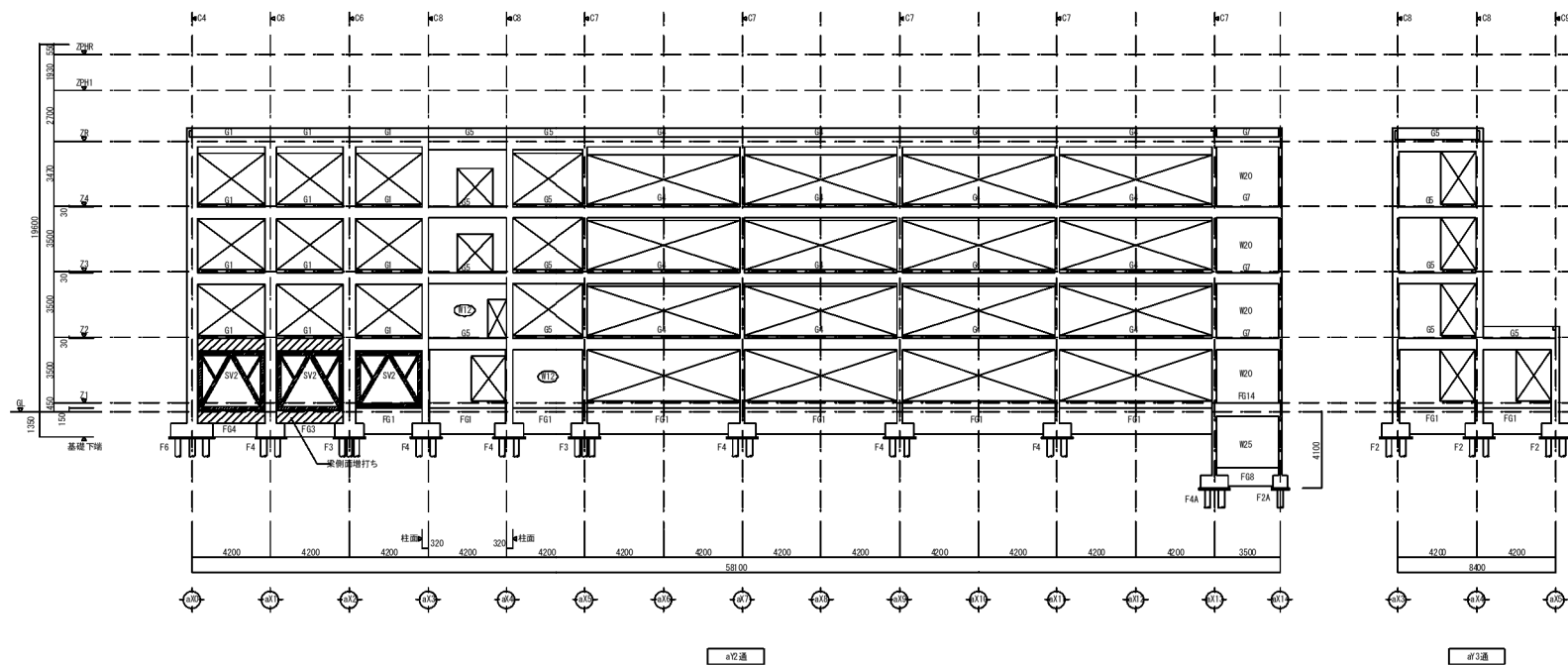
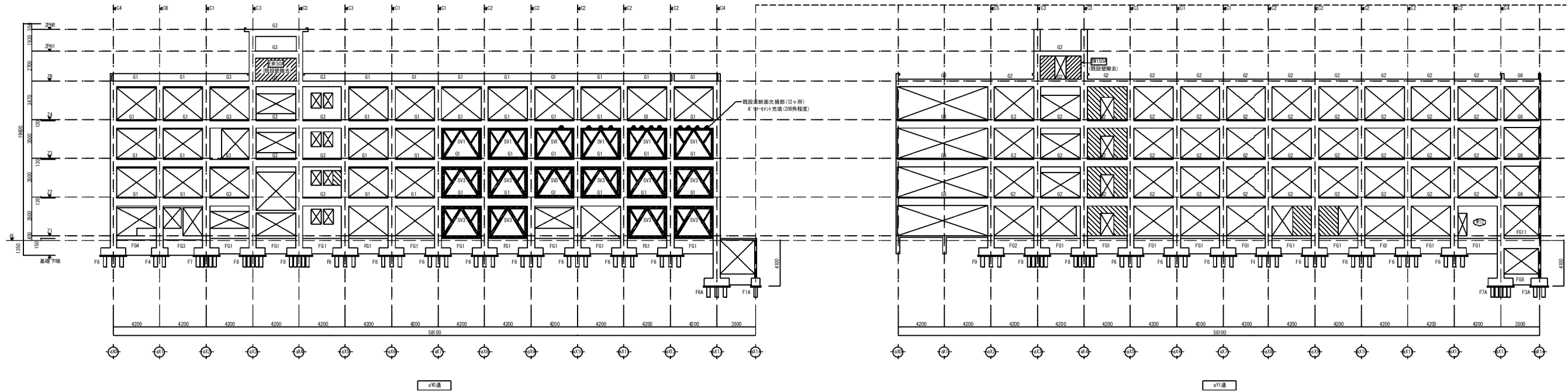
符号	部材	仕様
SV1	ブレース	H150×150×7×10 H150×150×7×10
SV2	ブレース	H150×150×7×10 H150×150×7×10
SV3	ブレース	H200×200×8×12 H200×200×8×12
SV4	ブレース	H200×200×8×12 H200×200×8×12

図示青囲み内容：解体対象

軸組図 (1) (現況図) 1/200
特記無き限り下部による。
○ 現況存在を示す。
○ 注記対象を示す。
● 注記対象を示す。

部 材		
符号	ブレース	材 質
SV1	H-150×150×7×10	H-150×150×7×10
SV2	H-175×175×7.5×11	H-175×175×7.5×11
SV3	H-200×200×8×12	H-200×200×8×12
SV4	H-200×200×8×12	H-200×200×8×12

・E800A : 耐力壁増設補強
・SV* : 鉄骨ブレース (継手工法)

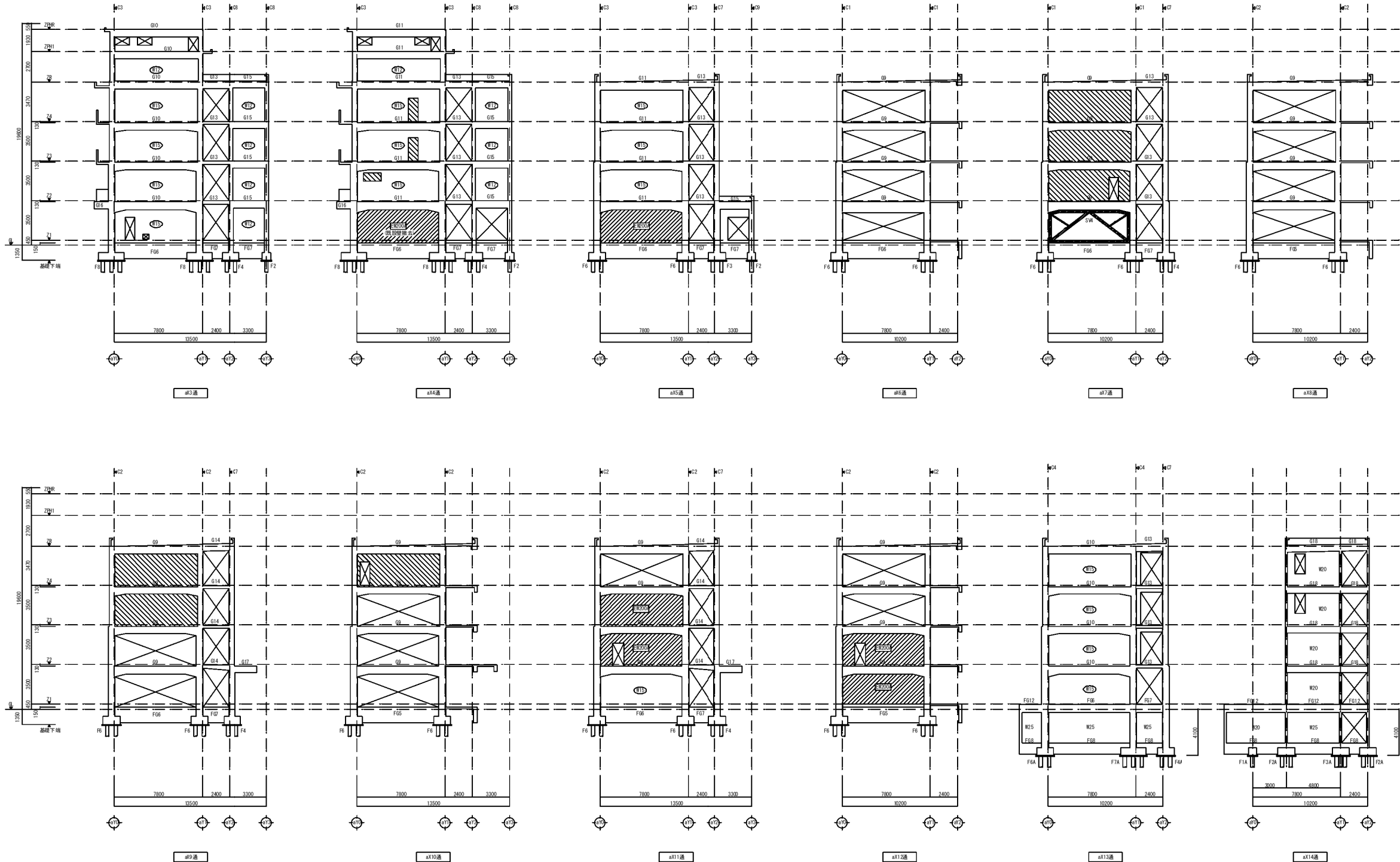


図示青囲み内容：解体対象

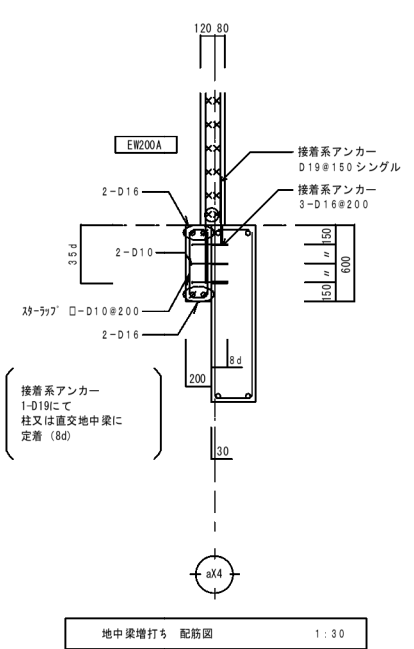
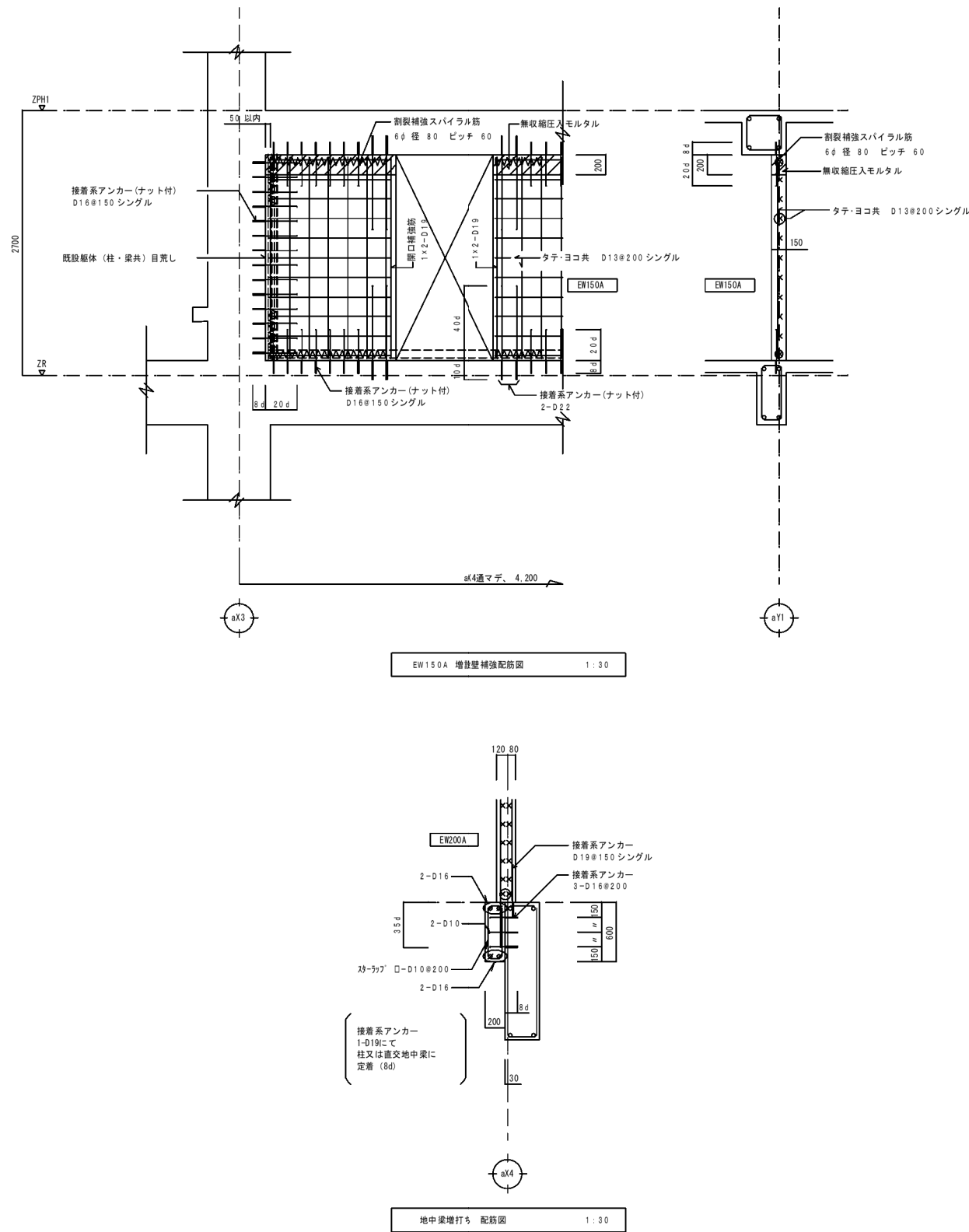
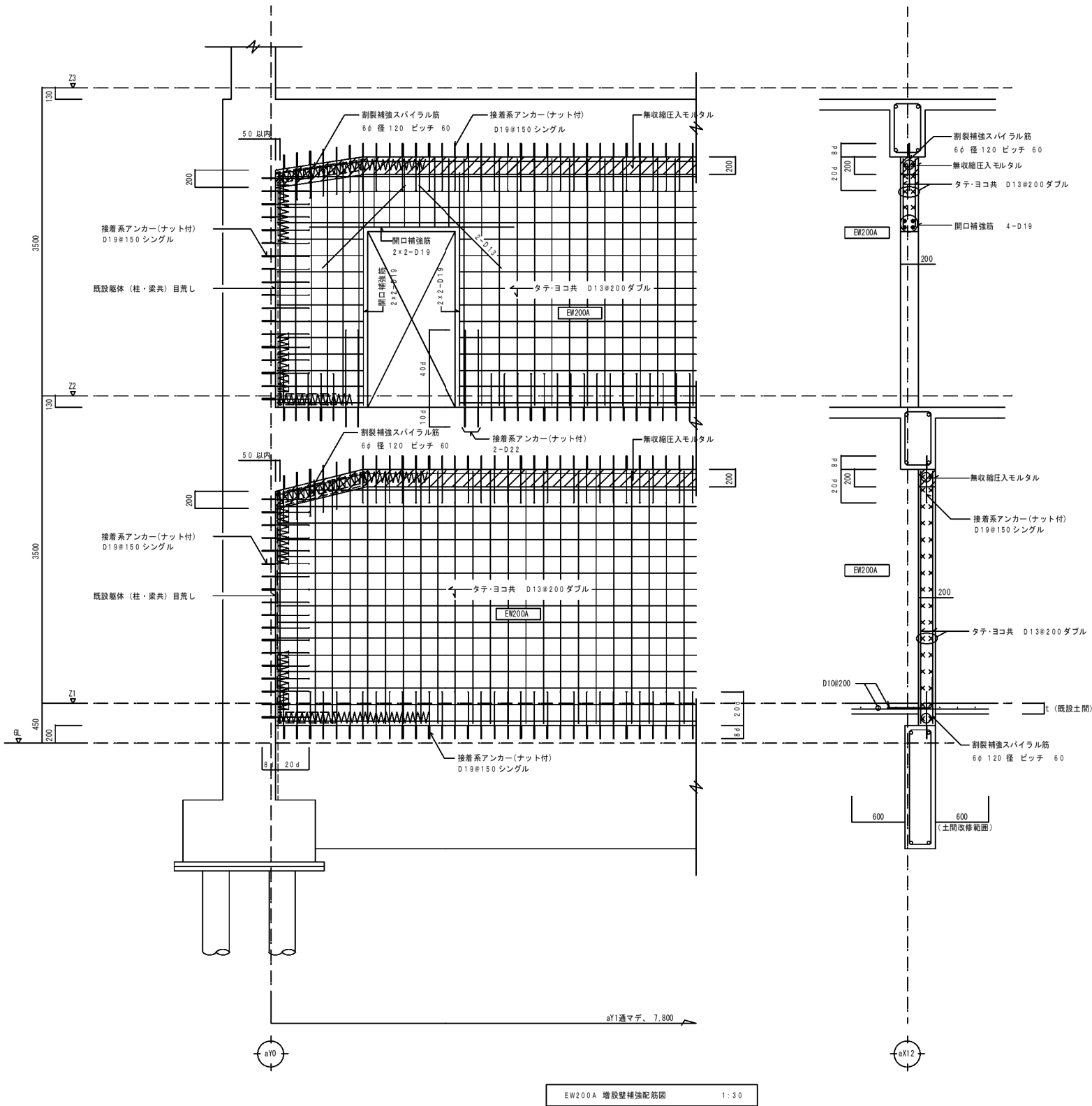
軸組図 (2) (現況図) 1/200
時刻表を現況下図による。
- 現況図は示す。
- 破線は示す。
- 破線は示す。

CB=K : 耐力壁増設補強
- SW : 鉄骨ブレース (補強工法)

桁号	ブレース	材	材
341	H-150×150×7	×10	H-150×150×7
342	H-175×175×7	×11	H-175×175×7
343	H-200×200×8	×12	H-200×200×8
344	H-200×200×8	×12	H-200×200×8



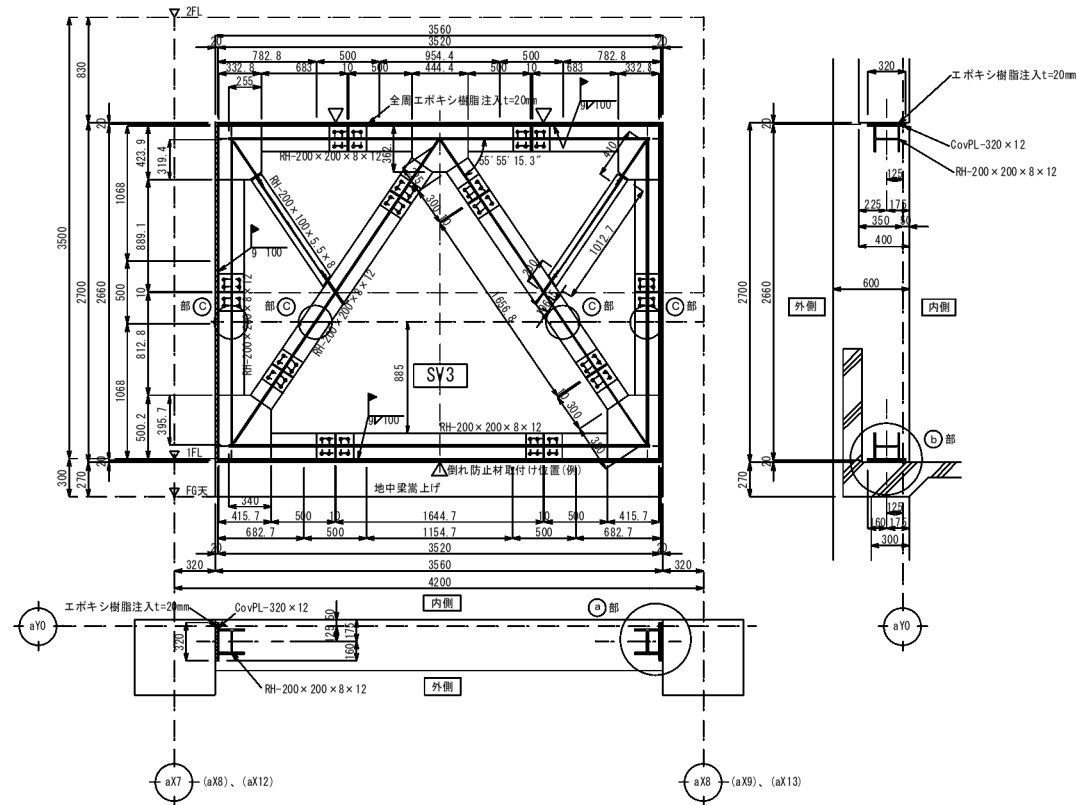
図示青囲み内容 : 解体対象



図示青囲み内容：解体対象

作成年月日		備考	株式会社 類設計室 本社 〒532-0011 大阪市淀川区西中島4-3-2 類ビル 本館設計室 〒144-0052 東京都大田区蒲田5-38-3 蒲田明日ビルディング 大阪設計室 〒532-0011 大阪市淀川区西中島4-3-2 類ビル	一級建築士事務所 一級建築士 大臣登録第363087号 設計 小熊 耕平	工事名称 生駒南中学校校舎等解体工事 図面名称 (本館)(H20)(現況撤去)本館 増設壁補強詳細図(2)	縮尺 A1:図示 A3:図示/2	図面NO. S-018
第1回	2026 5 29						
第2回							
第3回							
第4回							

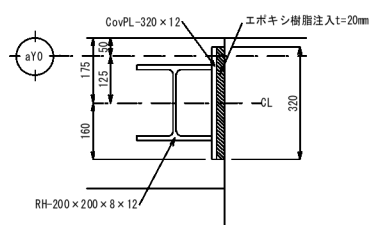
鉄骨ブレース補強詳細図 (1) 1 : 3.0



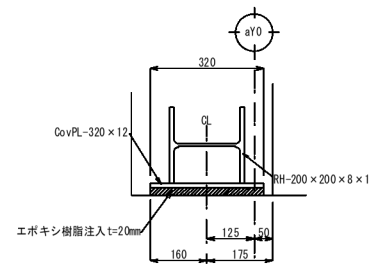
エポキシ樹脂注入t=20mm

CovPL-320x12

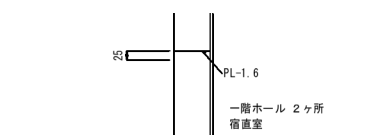
RH-200x200x8x12



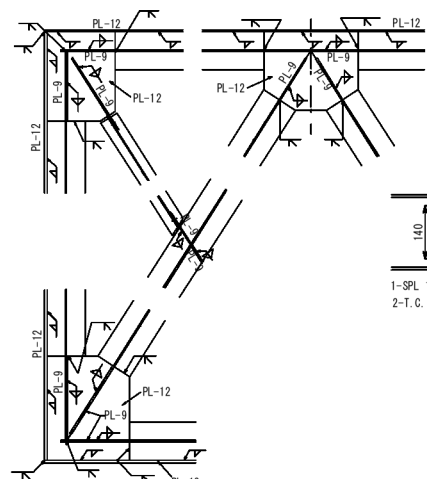
(a)部 1 : 1.0



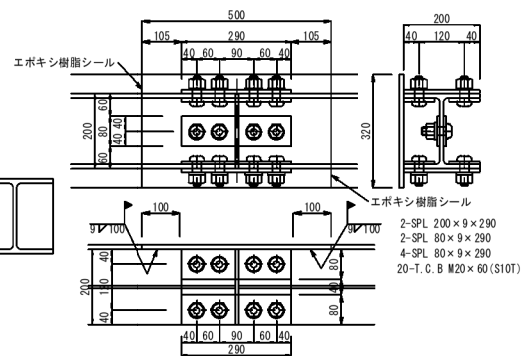
(b)部 1 : 1.0



(c)部 1 : 1.0

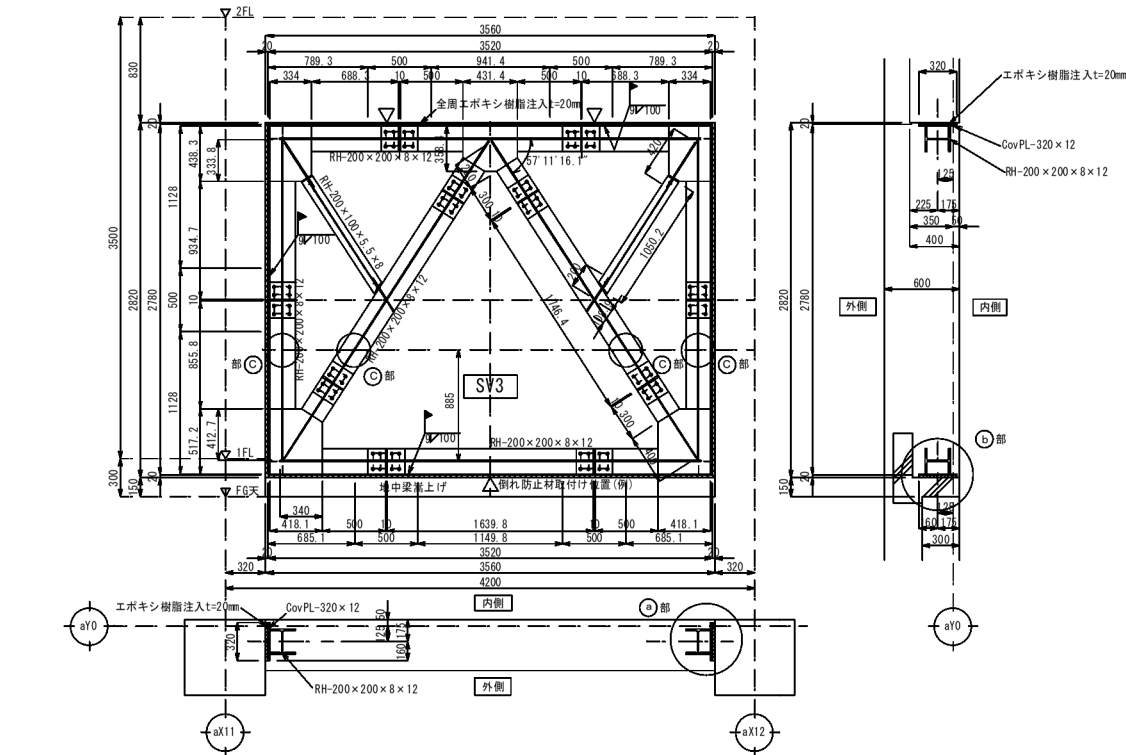


接合部詳細図 1 : 3.0



注) 特記なき鋼材材質はすべてSS400とする
施工および材料加工に際しては現場寸法確認の上、実施すること
鉄骨継手位置は現場条件を考慮し決定すること
倒れ防止材の形状および取付け位置は、現場条件を考慮し決定すること

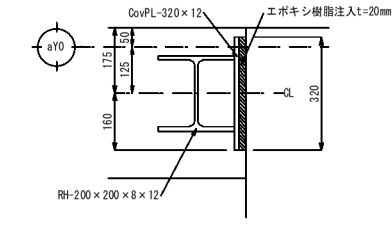
添接部詳細図 1 : 1.0



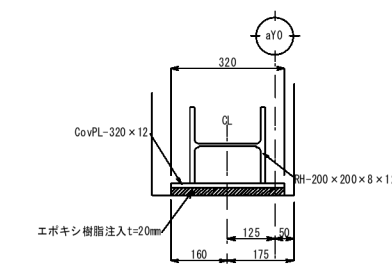
エポキシ樹脂注入t=20mm

CovPL-320x12

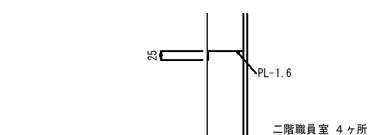
RH-200x200x8x12



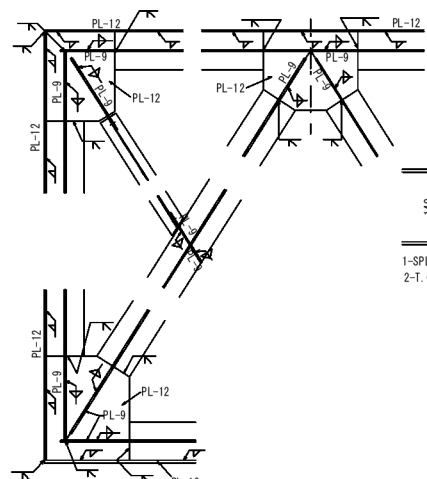
(a)部 1 : 1.0



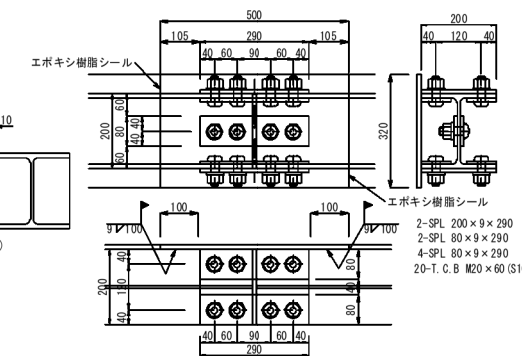
(b)部 1 : 1.0



(c)部 1 : 1.0



接合部詳細図 1 : 3.0

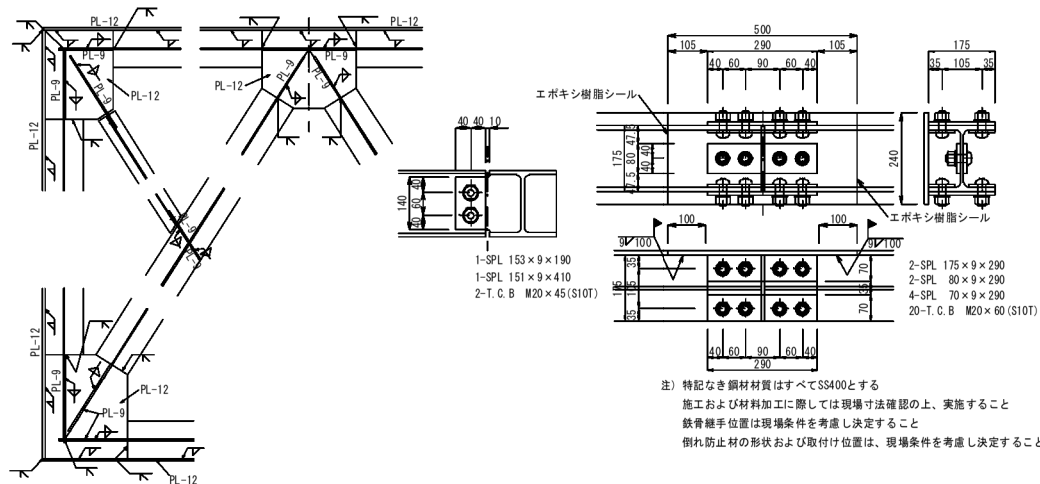


注) 特記なき鋼材材質はすべてSS400とする
施工および材料加工に際しては現場寸法確認の上、実施すること
鉄骨継手位置は現場条件を考慮し決定すること
倒れ防止材の形状および取付け位置は、現場条件を考慮し決定すること

添接部詳細図 1 : 1.0

図示青囲み内容：解体対象

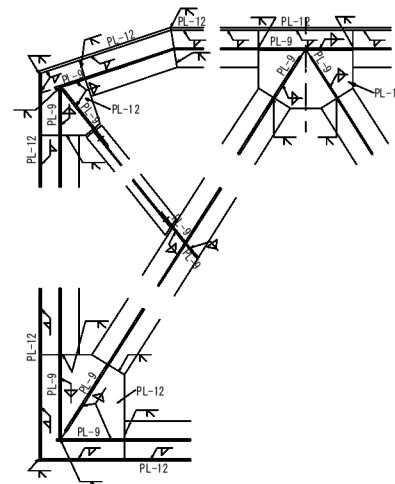
作成年月日		備 考		株式会社 類設計室		一級建築士事務所		一級建築士 大臣登録第363087号						今村 達哉		工事名称		生駒南中学校校舎等解体工事		図面NO.			
第 1 回	2026 5 29			本社 532-0011 大阪市淀川区西中島4-3-2 類ビル 06-6305-2222				設計						鈴木 康夫		図面名称		(本館)(H20)(現況撤去)本館 鉄骨ブレース補強詳細図(1)		縮尺 A1:図示 A3:図示/2		S-019	
第 2 回				東京設計室 144-0052 東京都大田区西蒲田5-3-8-3 蒲田朝日ビルディング 03-5713-1011										館柳 光佑									
第 3 回				大阪設計室 532-0011 大阪市淀川区西中島4-3-2 類ビル 06-6305-6666						小熊 耕平													
第 4 回																							



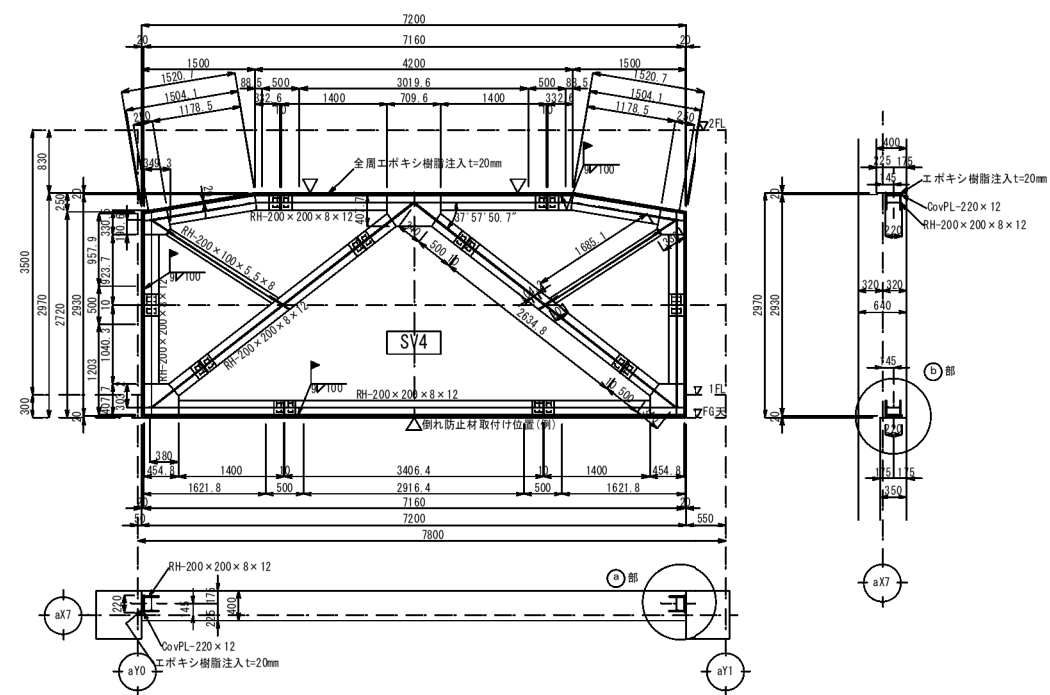
1 : 30

1 : 10

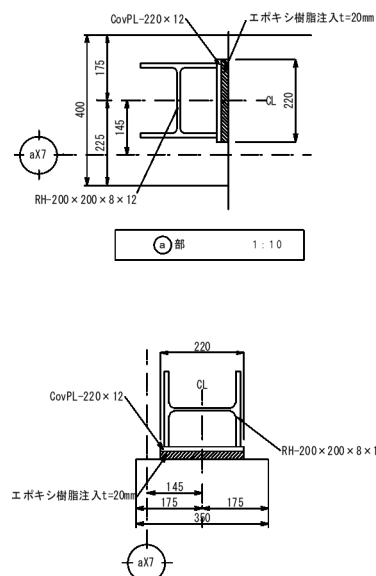
1 : 10



1 : 3 0



1 : 10

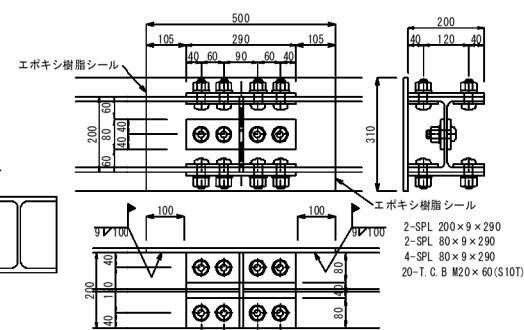
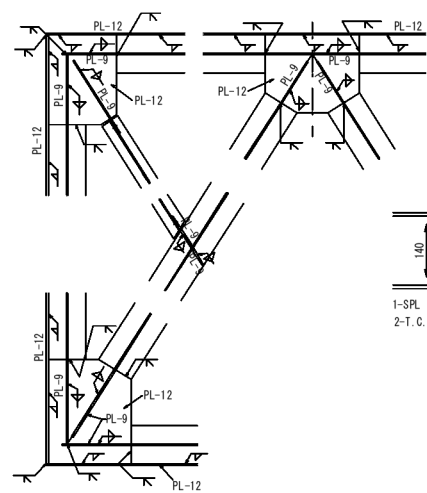
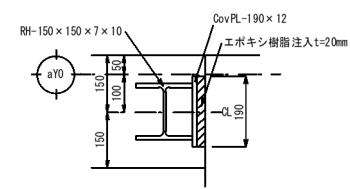
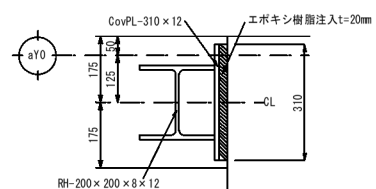
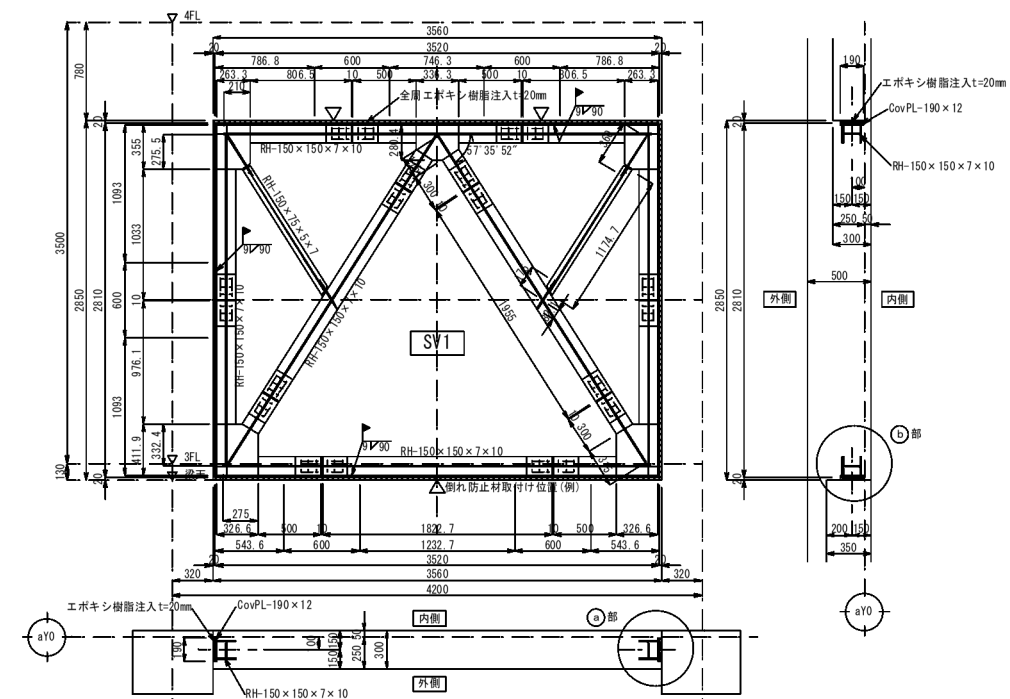
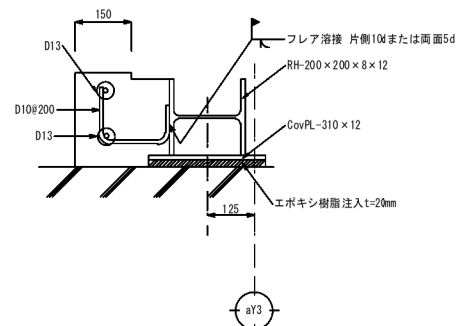
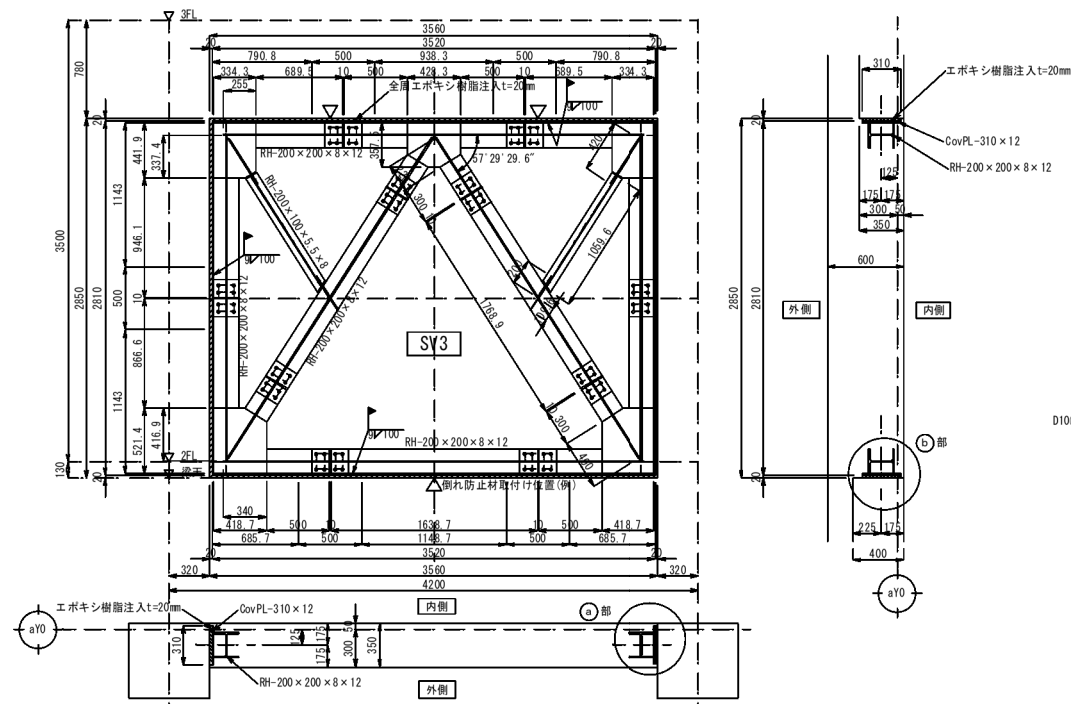


1 : 10

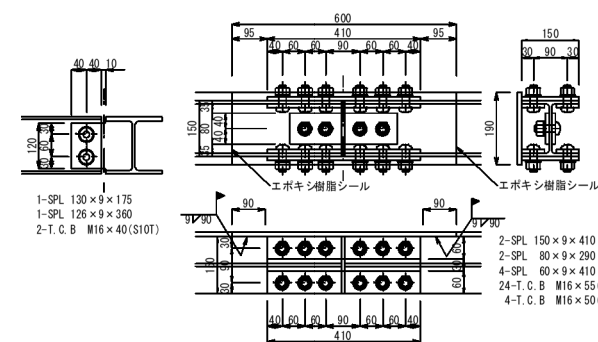
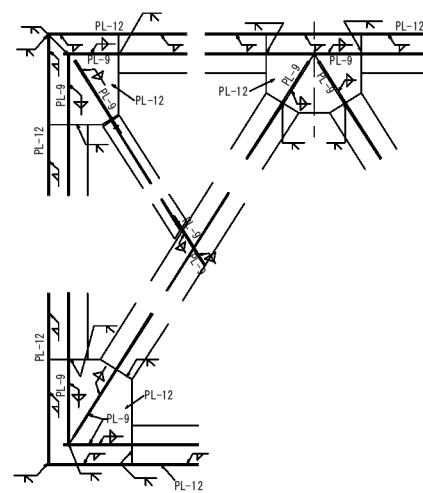
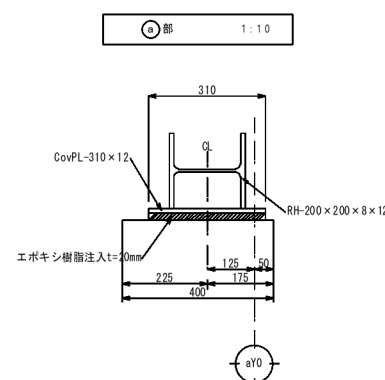
图面NO.

		作成年月日	備 考	株式會社 類設計室 一級建築士事務所 本社 〒532-0011 大阪市淀川区西中島4-3-2 類ビル 06-6305-2222 東京設計室 〒144-0052 東京都大田区堀田5-3-8-3 濱田朝日ビルディング 03-5713-1011 大阪設計室 〒532-0011 大阪市淀川区西中島4-3-2 類ビル 06-6305-6666	設計 一級建築士 大臣登録第363087号 小熊 耕平	担当 今村 達哉 鈴木 康夫 館柳 光佑	工事名称	生駒南中学校校舎等解体工事	図面NO. S-020
第 1 回	2026 5 29		図面名称				(本館) H20 (現況撤去) 本館 鉄骨ブレース補強詳細図 (2) 縮尺 A3:図示 A1:図示/2		
第 2 回									
第 3 回									
第 4 回									

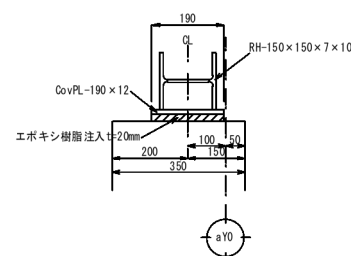
鉄骨ブレース補強詳細図 (3)	1 : 3 0
-----------------	---------



注) 特記なき鋼材材質はすべてSS400とする
 施工および材料加工に際しては現場で確認の上、実施すること
 鉄骨継手位置は現場条件を考慮し決定すること
 倒れ防止材の形状および取付け位置は、現場条件を考慮し決定すること

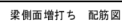


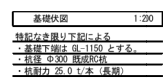
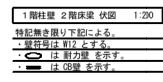
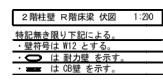
注) 特記なき鋼材材質はすべてSS400とする
施工および材料加工に際しては現場寸法確認の上、実施すること
鉄骨差手位置は現場条件を考慮し決定すること
倒れ防止材の形状および取付け位置は、現場条件を考慮し決定すること



図示青囲み内容：解体対象

	作成年月日	備考	株式会社 類設計室	一級建築士事務所	設計	一級建築士 大臣登録第363087号		担当	今村 達哉	工事名称	生駒南中学校校舎等解体工事	図面NO.
第1回	2026 5 29								鈴木 康夫			S-021
第2回			本社 〒532-0011	大阪市淀川区西中島4-3-2	類ビル	06・6305・2222						
第3回			東京設計室 〒144-0052	東京都中央区堀田5-3-8-3	演習朝日ビルディング	03・5713・1011						
第4回			大阪設計室 〒532-0011	大阪市淀川区西中島4-3-2	類ビル	06・6305・6666		小黒 耕平	館柳 光佑	図面名称	(本館) H20 (現況撤去) 本館 鉄骨ブレース補強詳細図 (3)	縮尺 A1:図示 A3:図示/2



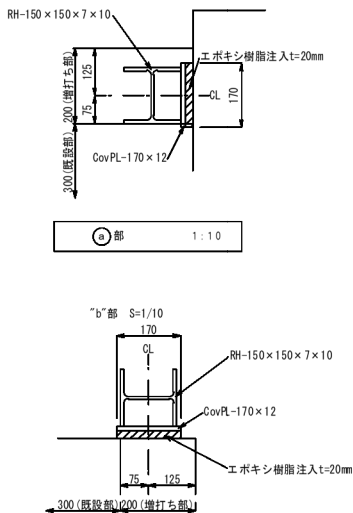
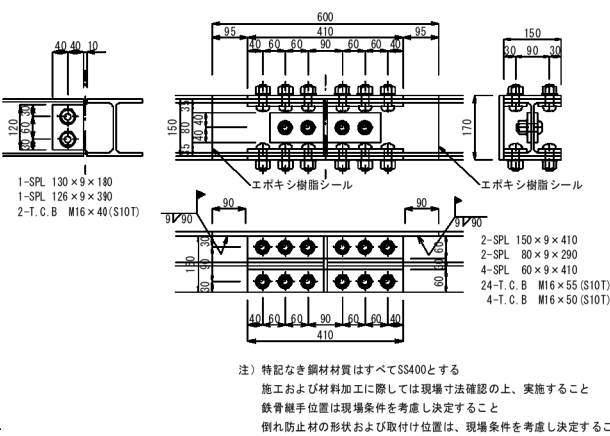
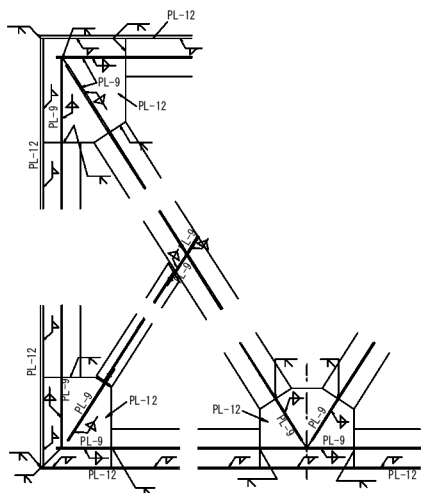
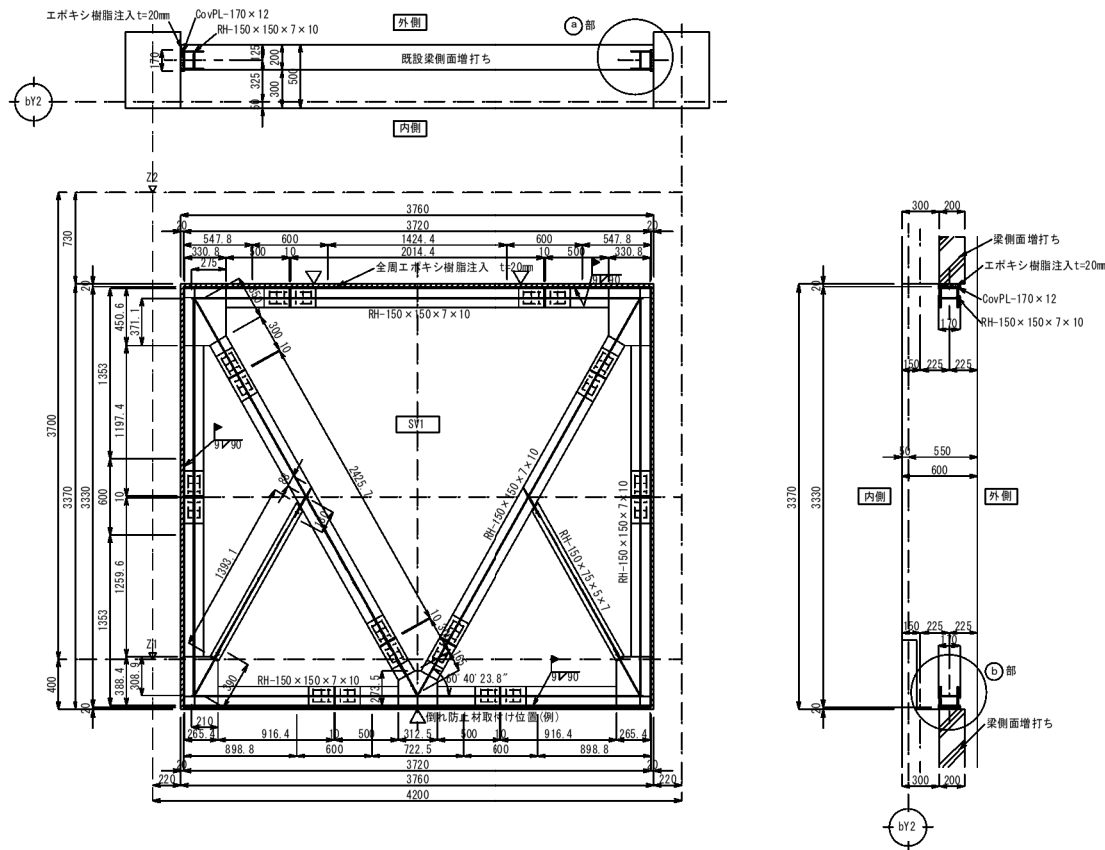
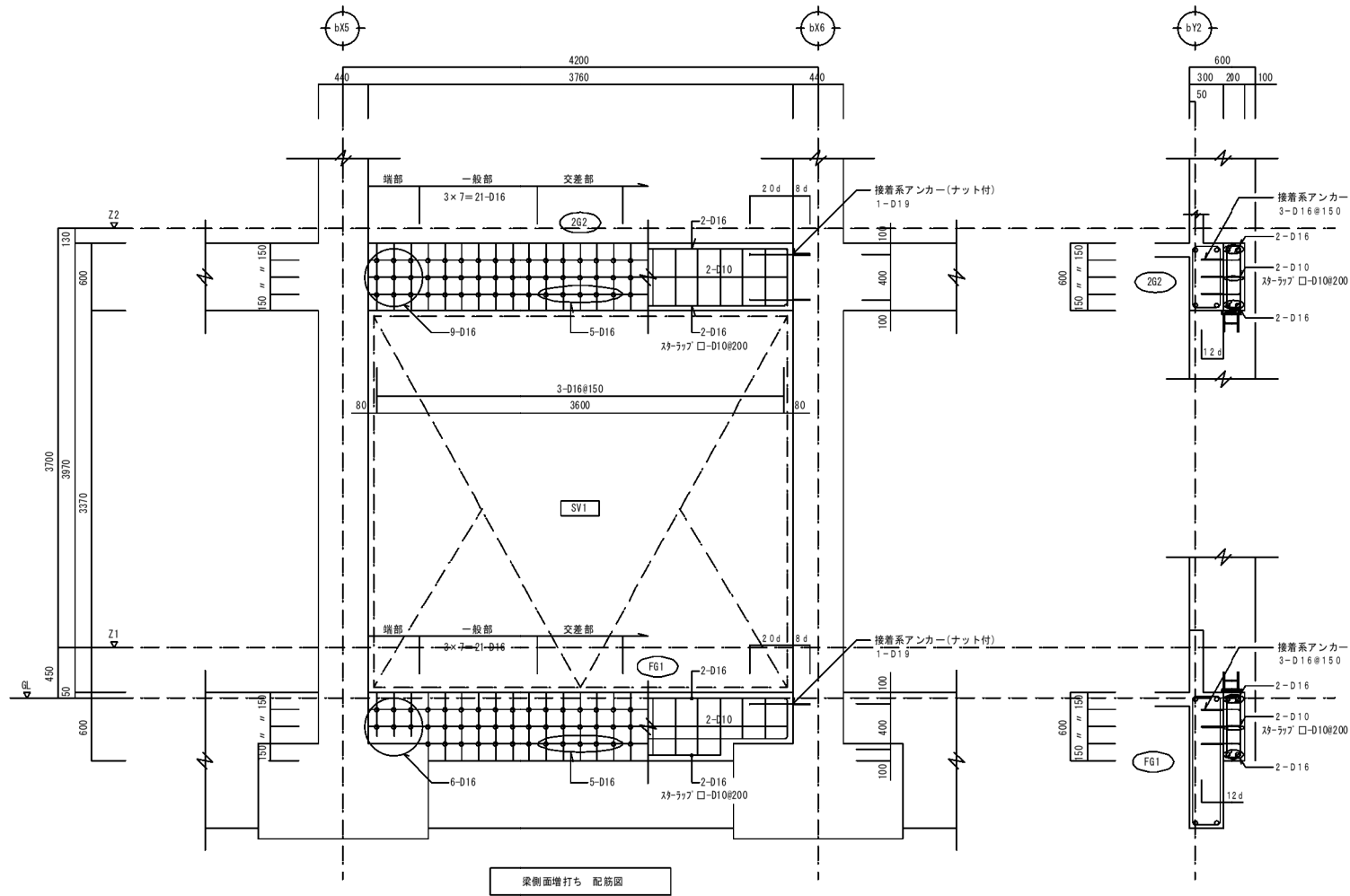


図示青囲み内容：解体対象

・ 	: 構造スリット
・SV*	: 鉄骨ブレース (接着力工法)

		作成年月日	備 考	株式会社 類設計室 一級建築士事務所 本社 社 532-0011 大阪市淀川区西中島4-3-2 類ビル 東京設計室 144-0052 東京都大田区蒲田5-3-8-3 蒲田朝日ビルディング 大阪設計室 532-0011 大阪市淀川区西中島4-3-2 類ビル 06・6305・2222 03・5713・1011 06・6305・6666	設計 一級建築士 大臣登録第363087号 小態 耕平		担当 今村 達哉 鈴木 康夫 館柳 光佑	工事名称	生駒南中学校校舎等解体工事	図面NO. S-024
第 1 回	2026 5 29		図面名称					(南館)(H20)(現況撤去)南館 伏図 (補強図) 軸組図 (補強図) 縮尺 A1:図示 A3:図示/2		
第 2 回										
第 3 回										
第 4 回										

鉄骨ブレース補強詳細図 1:30



図示青囲み内容：解体対象

作成年月日		備 考	株式会社 類設計室 一級建築士事務所 本社 社 千 532-0011 大阪府淀川区西中島 4-3-2 類ビル 06-6305-2222 東京設計室 千 144-0052 東京都大田区蒲田 5-3-8-3 蒲田朝日ビルディング 03-5713-1011 大阪設計室 千 532-0011 大阪府淀川区西中島 4-3-2 類ビル 06-6305-6666	設計 一級建築士 大田登録第363087号 小熊 耕平	担当 今村 達哉 鈴木 康夫 館柳 光佑	工事名称 生駒南中学校校舎等解体工事		図面NO S-026
第 1 回	2026 5 29					図面名称 (南館) (H20) (現況撤去) 南館 鉄骨ブレース補強詳細図		
第 2 回						縮尺 A1: 図示 A3: 図示/2		
第 3 回								
第 4 回								

鉄骨ブレース接着工法特記仕様書

1. 一般事項
- 1-1適用範囲
- 建設防災第2034号「鉄骨ブレース接着工法 設計・施工指針」による。
- 1-2施工計画
- 工事着手前に先立ち、下記の事項について充分検討し施工計画を作成して、監督職員に提出する。
- 工程計画
- 資材・機材の搬入および保管
- 現場養生
- 仮設計画
- 1-3施工管理体制
- 本工事の接着工法の施工は、設計・施工指針 7章 7.1に記載された専門工事会社とする。

2. 材料仕様
- 2-1鋼材
- 本工法で用いる鋼材は、特別な場合を除いて下記の10種類とする。

一般構造用圧延鋼材	SS400級
溶接構造用圧延鋼材	SM400級、SM490級
建築構造用圧延鋼材	SN400級、SN490級
一般構造用軽量形鋼	SSG400級
一般構造用炭素鋼管	STK400級
建築構造用炭素鋼管	STKN400級
建築構造用低炭素鋼	LY100級、LY225級

- 2-2注入接着用樹脂
- 注入接着用エポキシ樹脂は下記の規格に適合するものとし、ロット毎に品質規格を満足することを確認されたものを使用する。
- 製造ロット毎の材料試験成績書を提出する。

項 目	単 位	試験方法	規格値
圧縮強度	N・m2	JIS K 7208	80以上
引張強度	N・m2	JIS K 7113	20以上
引張せん断接着強度	N・m2	JIS K 6850	10以上
粘 度 (混合時)	mPa・s	JIS K 6853	3000以下

- 2-3シール用樹脂
- シール用のパチ状エポキシ樹脂は、コンクリートと鉄骨材との接着性を十分に確保できるもので、間隙充填時に垂れ下りがないものを使用する。注入材間隙下記の規格を満足するものを使用する。
- 製造ロット毎の材料試験成績書を提出する。

項 目	単 位	試験方法	規格値
粘 度	mm	JIS A 1439	タレ認めず
圧縮強度	N・m2	JIS K 7208	80以上
引 張 強 度	N・m2	JIS K 7113	20以上
引張せん断接着強度	N・m2	JIS K 6850	10以上

- 2-4防錆塗料
- 鉄骨接着接合面に塗布する防錆塗料は下記の何れかの品質を有するものとし、法人標準用エポキシ樹脂と接着性のよいものを使用する。
- | | | |
|-------------------------------|------------|------------|
| JIS K 5623 (長期暴露型エポキシプライマー2種) | 鋼板ペイント (機) | メタラクトH-15 |
| JIS K 5531 (エポキシ樹脂塗料1種) | 樹脂ペイント (機) | エポマリンプライマー |
- 接着性能: JIS K 6850 (接着剤の引張せん断接着強度試験方法)による引張せん断接着強度が10N/mm2以上で、材料によって低下しないこと。
- 鉄骨接着接合面以外の防錆塗料は特記による。

- 2-5断面補修材
- 既存躯体コンクリートの断面補修材 (ポリマーセメントモルタル) は、十分な接着力と既存コンクリートと同等以上の強度を有する材料を使用する。

項 目	単 位	試験方法	規格値
圧 縮 強 度	N・m2	JIS A 1108に準拠 JIS A 1172 (JIS R 5201)	Fc以上 1.2Fc以上
コンクリートとの付着強さ	N・m2	JIS A 6805 又は JIS A 6809に準拠 (建築式)	0.38・Fc以上

FC: 断面耐力の算定に用いる既存コンクリートの圧縮強度

3. 施工
- 3-1施工手順



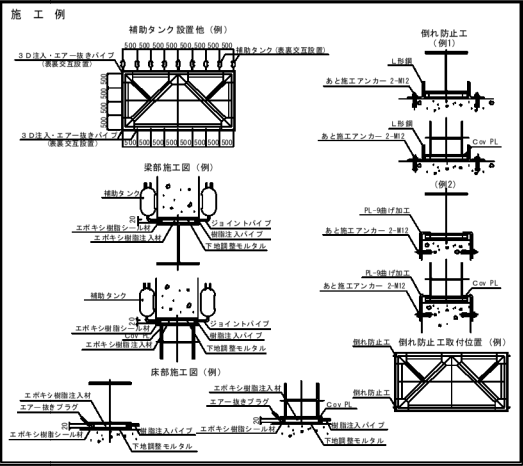
- (1) 準備工
- a) 既存設備の移動
- 施工部の既存設備 (配管類・取付け金物・配電盤・その他) は記録に残した後、移動する。
- b) 仮設 (足場・養生設備等)
- 補修対象物や現場状況に適合した足場や養生は、安全性や作業性に十分配慮し、さらに、必要に応じて粉塵や騒音対策を考慮して仮設する。
- 外部に面する部材の場合には、風雨に対する養生を行う。
- また、低温時には保温を考慮した養生を検討して仮設する。
- c) 施工部下地の確認
- 既存コンクリートの損傷度 (ひび割れ・欠損・脆弱部・その他) をチェックし記録する。
- d) 既存躯体の寸法取り、鉄骨製作図作成
- 既存躯体の寸法を記録し、鉄骨製作図を作成する。
- e) 使用材料、資機材の搬入及び保管
- 使用材料である注入接着用エポキシ樹脂及びシール用エポキシ樹脂パチの品質規格や数量の確認を行い、品質証明書・出荷証明書によって品質の確認及び数量の確認を行う。
- (2) 下地処理工
- a) 仕上がり材の除去
- 躯体コンクリート表面に仕上げ材 (塗料・タイル・ボード類等) が施されている場合は、その仕上げ材を除去し、構造物コンクリートを露出する。
- b) コンクリート表面の整形・調整
- コンクリート表面の突起や段差は、ディスクサンダー等で平坦にする。
- 表面全様のレベル誤差は断面補修材 (2-5) で行う。
- (3) 鉄骨製作工
- a) 鉄骨材の寸法
- 鉄骨材の寸法は下地調整と並行して検討するが、下地との間隔は原則として20mm以下となるよう留意して決定する。
- b) 鉄骨材接着面の準備
- 鉄骨材の接着面は、ショットブラスト処理後直ちに防錆塗料 (2-4) を施す。
- c) 鉄骨材組ぎ手際
- 鉄骨材の組ぎ手は、既存躯体に対する接着強度が保持できる形であると施工性の良い事を確認して決定する。
- (4) 鉄骨取付工
- a) 取付け位置の選定
- 鉄骨取付け位置に必要なレベル面および出入り面を出す。
- b) 部材の搬入
- 部材の重量、大きさを考慮して、搬入経路・搬運方法及び仮置きスペース等十分検討して計画を立てる。
- c) 部材の地盤・取付け
- 鉄骨の組立はフロア上で地組した後、所定の位置に取付け、レベルを調整して倒れ防止を施す。
- (5) シール工
- a) パチ状エポキシ樹脂の直塗り
- パチ状エポキシ樹脂の主材・硬化材を所定の割合で秤量し、電動工具等を用いて直塗りする。
- b) 3D注入・エアージェッキパイプの取付け
- 3D注入・エアージェッキパイプはエアの集まる箇所、床方向ではランジ側に、床方向では躯体側に奥奥交叉点に約500mmピッチで設置する。柱側ではピッチ割りに配慮する。
- c) シール工
- 注入用エポキシ樹脂の濃漏れの無いように留意して鉄骨材接着部ランジ端部周りを入念にシールする。
- d) 補助タンクの取付け
- シールを完了しパチ状エポキシ樹脂の硬化を確認したら、樹脂注入前工程として補助タンクを設置する。
- 注入最終工程となる部材においては空留を発生させてはならないため、奥部のエアージェッキパイプにビニールチューブやジョイントパイプを用いて補助タンク(フラットチューブ)を連結して、注入終了後の万一の樹脂漏れ等に備える。

- (6) 樹脂注入工
- a) 注入用エポキシ樹脂の秤量・混合
- 注入接着用のエポキシ樹脂主材・硬化材を所定の割合で電動工具を用いてエアークミの無いよう配慮して混合する。
- b) エポキシ樹脂の注入
- 混合した注入用エポキシ樹脂は、電動の注入機により鉄骨ブレースの最下部中央付近より徐々に注入を開始する。
- シール完成時に設置してあった3D注入・エアージェッキパイプの先端に取り付けた各々のエアージェッキプラグに樹脂が溜り床面全面を満した後、柱側を1m程度立ち上がった所で第1箇目の注入を終了する。
- 1次注入の樹脂の硬化後、両側の柱部に2次注入を開始する。2次注入時に特別シール材の破損や樹脂漏れがなければ、そのまま3次注入へ移行する。
- 奥部に注入樹脂が満たされた後、各々に取付けられた補助タンク(フラットチューブ)内部をほぼ満した所で作業を終了する。
- c) 養生
- エポキシ樹脂は低温 (5℃以下) では硬化が遅れる。従って場合によっては保温対策を検討する。
- また、外壁に面する場所では雨対策養生を行う。
- 注入後の硬化までの養生は、通常では24時間以上とする。
- (7) 仕上げ工
- a) 注入・エアージェッキパイプの除去
- 注入用エポキシ樹脂の硬化を確認した後、打撃検査を行い空留の無いことを確認する。
- 注入後の硬化までの養生は、通常では24時間以上とする。
- その後、注入・エアージェッキパイプの除去、クレンを施し作業を終了する。

4. 品質検査
- 使用する材料の品質検査は、製造所の試験成績書を提出する。
- 使用した材料の品質検査は、下記による。

材 料	主な検査方法	判 定	試験回数
圧縮強度	JIS K 7208	接着用エポキシ樹脂の品質規格による。	工事期間中1回以上かつ製造ロット毎
注入接着用樹脂	JIS A 1108		

5. 施工記
- 下記の事項について施工記録を作成し、監督職員に提出する。
- 作業工程、施工方法、天候・気温、品質検査記録、工事記録等)



図面青囲み内容：解体対象

作成年月日		備 考	株式会社 類設計室 一級建築士事務所 本社 〒532-0011 大阪市淀川区西中島4-3-2 類ビル 06-6305-2222 東京設計室 〒144-0052 東京都大田区蒲田5-3-8-3 蒲田明日ビルディング 03-5713-1011 大阪設計室 〒532-0011 大阪市淀川区西中島4-3-2 類ビル 06-6305-6666	設計 一級建築士 大臣登録第363087号 小熊 耕平			担当 今村 達哉 鈴木 康夫 館柳 光佑	工事名称	生駒南中学校校舎等解体工事	図面NO. S-027	
第 1 回	2026 5 29							図面名称	(本館) (H20) (現況撤去) 本館 鉄骨ブレース接着工法特記仕様書 縮尺 A1:- A3:-		
第 2 回											
第 3 回											
第 4 回											